して 2007 年 2 月 28 日（水）に開催された。講演内容が建築作品紹介であり、建築学生全般の関心事であろうとの配慮から、3 年生に加えて建築系の 4 年生や大学院生も受講を可能とした。受講者は学部生 30 名、大学院生 10 名、教員 3 名であった。

講演では栗生事務所の建築作品の紹介だけでなく、建築設計の思想的側面から実務的側面までさまざまなエピソードを交えながら語られていた。実際講演者の岩佐氏は、著名な建築作品を数多く創り出している建築設計事務所の所長を務めている。氏が熊本大学建築学科出身であることから、建築設計の第一線で活躍している大先輩の話を聞けたとあって、受講した学生たちにとってはたいへんな　激になっていたようである。

講演終了後の質疑では、先輩ということも後押ししてか、活発な議論がなされた。

講演の様子

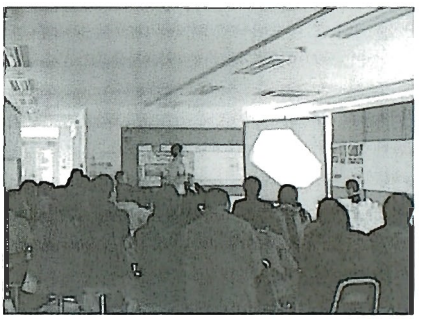
受講者による感想等を以下に記する。

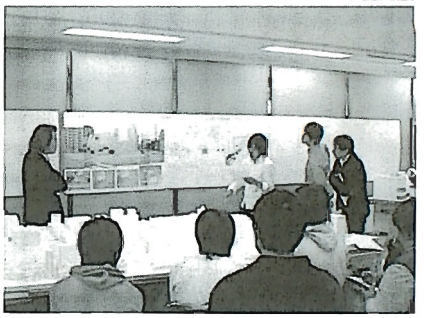
「建築は周りの環境に大きく影響を与える」ということはなんとなく理解していた。今回の講演を聞くことで敷地や敷地周辺の計画が重要であるという考えがよりいっそう深まった。国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館・国際花の交流館にしてもその計画は敷地をはるかに越えてその周辺からどのように見えるのかというところにまでおよんでいた。今回の上乃裏通りの課題において自分たちは敷地内での思考に重点をおき、その中で解決することばかりを考えていた点を反省すべきだと改めて感じた。建築は図面から一歩踏み出し建設されだすと、地域や社会に順応し、貢献しなければならないと思う。その点において私が設計する建物は自己満足でしかないものである。実際に建設されたものは、一般の人が使用することが多いので一般の人に認められる設計をする必要があると改めて感じました。（041T1611 大坪慎一朗）

講演会「近作を語る」と課題講評会

長谷川豪建築設計事務所 長谷川豪
環境システム工学科（建築系）３年対象 担当教員：田中智之

実施概要





平成１９年３月１７日、工学部１号館６階第二製図室において「近作を語る」と題する講演が開催された。聴講者は約３０名。氏は現在最も注目されている若手建築家のひとりである。

講演は最近手掛けた住宅３題に関する解説をベースとし、あわせてその背景にある設計思想、設計手法を紹介するかたちで行われた。

最初に紹介された「森の中の住宅」は、豊かな森に佇むシンプルな切妻型の小建築であるが、その断面に大きな特徴をもっている。全体を形作る切妻のなかに幾つかの小さな切妻空間を配し、それによってできあがる多彩な小屋裏空間を様々なかたちで利用している。続いて「桜台の住宅」では室内化された「中庭」の床が大きな机でもあり、それを家族が囲むというユニークな生活空間である。最後の「五反田の住宅」は三階建ての住宅であるが、隙間をもつ分棟型であり、その隙間はガラスのトップライトと建具により半室内化されている。その建具である扉は高さが約１０メートルもある。

これらの作品は明快なコンセプトに基づいているが、そこに矛盾やギャップは見あたらない。普段学生達はコンセプトと建築を結びつけることに四苦八苦しているのであるが、氏のコンセプトが都市や敷地に対する深い洞察から導き出され、さらには施主との対話を通じて展開し、実際の建築との関係がクリアーであることに学生たちはとくに感心していたようである。

講演後には質疑応答が行われ、質問が途切れることはなく充実した時間となった。また講演会終了後には設計課題の講評会と懇親会が行われたが、長谷川氏を取り囲む建築談義は深夜まで続いた。